

人を相対化する表現

東京藝術大学大学院美術研究科
博士後期課程美術専攻日本画領域
学籍番号 1322901
宇野七穂

論文要旨

日々の生活の中で、人々の表情や自然の移ろい、社会の変容など、あらゆる要素が絶え間ない変化の中にあることに気づく。絵画制作者である筆者は、その変化の過程を「俯瞰」した視点で観察しながら自身の制作の核心を探ろうとしている。しかし、“これが正解だ”や“これは不変だ”といった固定的な基準を設けようとする、その基準となるものになぜか違和感を覚えてしまう。

そしてこの感覚は、知らず知らずのうちに創作活動にも反映されている。筆者はこれまで、植物や自然の風景、人物など、さまざまなテーマで作品を制作してきた。それらを見返したとき、画面上に表出させてきた表現とは対照的に、筆者が意図的に回避してきた表現や制作途中に生じる迷いなどが、ひとつのモチーフを固定的な基準で判断したり、他から切り離して捉えたりするのではなく、常に周囲との関係性の中で理解しようとする「俯瞰」的な姿勢と強い結びつきがあると考えた。

本論文は、筆者が興味の対象を「俯瞰」して見ることによる自身の制作への影響を考察する制作論である。このような筆者の意識は、必然的に自身の物事の見方や考え方に影響を与えていく。そして筆者の「俯瞰」的な姿勢は、対象を他のものとの関係で捉えたり、異なる視点と見比べたりする行為とも深く関わっていく。この、いつも興味の対象を他のものとの関係の中で理解しようとする筆者の姿勢が、絵を描く時の基本になっているような気がする。

そして、筆者のこの姿勢は更に発展し、絶対的な基準や価値観を設定せずに、隣り合うものや離れたものを見比べて、ひとつの視野に複数のものを取り入れるような表現をしたいという思いへ繋がっていく。それは、ある人物を理解するときには一個人の人となりをつめるのではなく、他の人とその人というような複数の存在を相対的に見て判断していくような感覚である。

提出作品のタイトルである〈People〉は、直訳すると“人々”といった複数の“人”を表す言葉であるが、本論文においては、筆者が絵にしたいと思う“人々”について表す言葉である。

〈People〉は単なる群像画を意味するのではなく、筆者の創作プロセスを示唆している。このプロセスでは、制作画面上に描いた複数の人物像を相対的に観察し、判断していく過程が重要な役割を果たしている。そして、それらのモチーフの関係性を「相対化」された状態で表現することを筆者の制作の目的ともしている。

本論文は3章で構成される。以下に本論文の章立てを述べる。

第1章「相対化の気づき」

第1節「視点の変化」では、筆者がものごとを「俯瞰」して見てしまうことと制作との密接な関わりを筆者の体験を交えながら示した。また、俯瞰して見ていたことが、どのように画面上に反映されてきたかを考察した。過去、無意識に制作画面に表していた構図や表現方法を見返し、そこから浮かび上がる筆者の制作時の「平面的」なモチーフの見方について言及した。その後、筆者の視野の動きである「アンビギュアスネス」な視線について解説し、全体を通して、「俯瞰」、「平面的」、「アンビギュアスネス」という筆者の視線を示すこれらのキーワードから、それらの関係性を述べた。

第2節「相対化の視点」では、本論文の中心テーマである「相対化」について詳しく説明した。次に、筆者が画面上のモチーフを相対的に比較する際の制作方法を解説した。ここでの筆者の制作方法は、“事前に計画したとおりに制作を進めるべき”や“りんごの葉の描写はこうあるべき”といった規則や固定観念に縛られないものである。代わりに、描画の瞬間ごとに生まれる直感的な印象や身体感覚に基づいて判断を行った例を示す。この相対的な比較方法が画面にどのような影響を与えるかを、筆者の実際の制作体験を交えて具体的に述べた。これにより、「相対化」の概念が実際の制作過程でどのように機能し、作品にどのような特徴をもたらすかを考察した。

第2章「作品の変遷」

第1節「選択」では、植物の朽ちる様子や、社会の動きの外部の変化、人物（他者）の表情の変化という、“変化”や“動き”に興味を湧く筆者の考えを「相対化」と照らして考察した。また、「相対化」の意識が強まるにつれ作風が変化していった、作品の変遷について述べた。

第2節「ムービング」では、自身の制作に人物モチーフの選択が増えていった理由を述べた。「ムービング」という取材方法を例に、筆者の意識的な描画動作と、画面上に自然発生する表現との関わり方を述べた。

第3章「提出作品」

第1節「暗黒舞踏」では、題材に「暗黒舞踏」を選択した筆者の理由を述べた。

第2節「提出作品〈People-Flow Separation〉について」では、提出作品について解説した。